

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(51)Int.Cl.⁵
G 0 6 F 15/38

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

15/20 5 2 0 S 6798-5L
15/40 5 1 0 E 7218-5L

審査請求 未請求 請求項の数3(全10頁)

(21)出願番号 特願平5-156531

(22)出願日 平成5年(1993)6月28日

(31)優先権主張番号 特願平4-171202

(32)優先日 平成4年(1992)6月29日

(33)優先権主張国 日本 (JP)

(71)出願人 000005049

シャープ株式会社

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

(72)発明者 合田 光廣

大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ

ャープ株式会社内

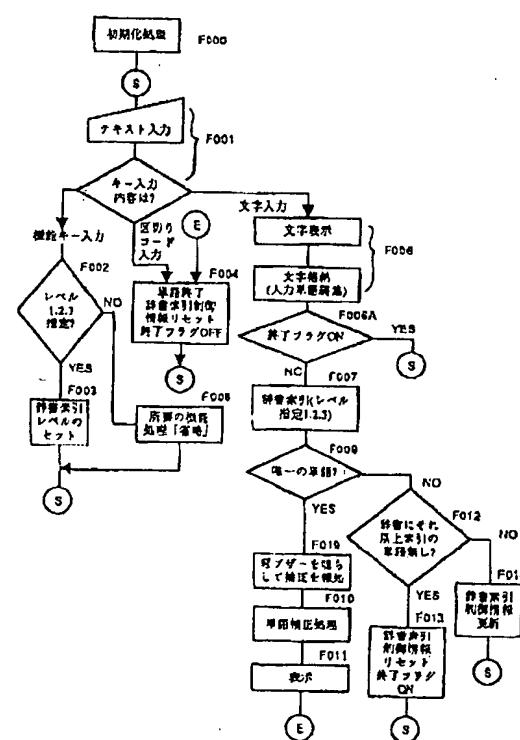
(74)代理人 弁理士 深見 久郎

(54)【発明の名称】 単語入力編集装置

(57)【要約】

【目的】 単語入力編集処理の効率を、個人的能力に依存せずに向上させる。

【構成】 キーボードや手書き入力、OCR等の入力装置と、電子化辞書と、入力装置を用いて入力される入力途中のコード列を電子化辞書の単語の一コード列と随時照合し、たとえば入力途中のコード列とその先頭部分が一致するような単語が電子化辞書中にただ1つ含まれるか否かを判定するための判定処理部 (F00.8) と、判定処理部により電子化辞書中にただ1つ含まれる単語であると判定された単語を出力する単語出力処理部 (F01.0) とを含む単語入力編集装置。入力途中のコード列の品詞等を推定し、辞書の単語との照合の際に品詞の一致を追加条件としても良い。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 コード信号を発生するための入力手段と、コード列からなる単語を複数個格納するための電子化辞書手段と、
入力手段を用いて入力された入力途中のコード列を、前記電子化辞書手段の各単語のコード列と随時照合し、入力途中のコード列と所定の関係となり得る単語が前記電子化辞書手段中にただ1つのみ含まれているか否かを判定するための判定手段と、
入力途中のコード列と所定の関係になり得る唯一の単語であると前記判定手段により判定された単語を出力するための単語出力手段とを含む、単語入力編集装置。

【請求項2】 前記判定手段は、

前記入力手段により入力される途中のコード列をその先頭に含む単語が前記電子化辞書手段内にただ1つのみ含まれているか否かを判定するための手段を含む、請求項1に記載の単語入力編集装置。

【請求項3】 前記入力手段は、文字情報を読み取り、各文字を認識してコード列に変換するための読み取り手段を含み、

前記電子化辞書手段は、コード列からなる単語を、各単語の所定の属性たとえば品詞等に関する情報と関連づけて複数個格納するための単語情報辞書手段を含み、

前記判定手段は、

前記読み取り手段の出力に応答して、前記読み取り手段が出力しているコード列により形成されるであろう単語の、前記所定の属性を随時推定するための属性推定手段と、

前記推定された属性と一致するものが、前記単語情報辞書手段内にただ1つのみ含まれているか否かを判定するための手段を含む、請求項1に記載の単語入力編集装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 この発明は、電子タイプ、電子手帳、ワードプロセッサ、ワークステーション、コンピュータなどにおける単語入力編集装置に関し、特に、電子化辞書を有する単語入力編集装置において、単語入力編集の際のタイピング負荷や、光学的読み取り装置などにより文字を読み取り、認識する際の装置への負荷を軽減することができる単語入力編集装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 この種の従来の単語入力編集装置として、電子手帳、電子タイプ、ワードプロセッサ、ワークステーション、コンピュータなど（以下ワープロなどと呼ぶ）に用いられるものがある。そのような単語入力編集装置の一例として、或る語とその略語とを組にして予め略語辞書として準備しておくものがある。略語をキーボードなどから入力することにより略語辞書の検索が行なわれ、その略語に対応する単語が略語辞書から取出さ

れて入力文字列として採用される。

【0003】 他の例として、既に入力された単語の先頭の何文字かをその単語に対応づけて自動的に記憶し、短縮入力辞書として蓄積するものがある。たとえば、一旦「株式会社」と入力されたときには、「か」をキーとして「株式会社」を短縮入力辞書に記憶する。そして、次回からは、「か」が入力された場合には、まずこの短縮入力辞書を検索し、対応する単語が格納されている場合にはその単語を入力文字列として採用する。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上述の従来の2つの例のいずれにおいても、求める単語を入力しようとする場合には、その単語に対応する略語、あるいはその先頭のいくつかの文字をタイピストが記憶し、その略語、または短縮文字列を入力する必要がある。そのため、入力編集処理の作業の短縮は、タイピストの記憶能力などの個人的能力により左右される。

【0005】 また、文字情報をたとえば手書き文字入力装置や光学的読み取り装置などにより読み取り、認識してコード化する場合に、上述のような略語辞書を用いれば、読み取りの速度が向上することが期待できる。

【0006】 それゆえに請求項1に記載の発明の目的は、従来よりさらに単語入力編集処理の効率を高めることができる単語入力編集装置を提供することである。

【0007】 請求項2に記載の発明の目的は、単語入力編集の際のタイピストの個人的能力には左右されずに、辞書をより効率的に利用して単語入力編集処理の効率を高めることができる単語入力編集装置を提供することである。

【0008】 請求項3に記載の発明の目的は、文書読み取り装置を用いたテキスト入力の際に、辞書をより効率的に利用して、単語入力編集処理の効率を従来よりも高めることができる単語入力編集装置を提供することである。

【0009】

【課題を解決するための手段】 請求項1に記載の単語入力編集装置は、コード信号を発生するための入力手段と、コード列からなる単語を複数個格納するための電子化辞書手段と、入力手段を用いて入力された入力途中のコード列を、電子化辞書手段の単語のコード列と随時照合し、入力途中のコード列と所定の関係になり得る単語が電子化辞書手段中にただ1つ含まれるか否かを判定するための判定手段と、入力途中のコード列と所定の関係になり得る唯一の単語であると判定手段により判定された単語を出力するための単語出力手段とを含む。

【0010】 請求項2に記載の単語入力編集装置は、請求項1に記載の単語入力編集装置であって、その判定手段は、入力手段により入力される途中のコード列をその先頭に含む単語であって、かつ電子化辞書手段内にただ1つのみ含まれているものが存在するか否かを判定するための手段を含む。

【0011】請求項3に記載の単語入力編集装置は、請求項1に記載の装置であって、その入力手段は、文字情報を読み取り、各文字を認識してコード列に変換するための読み取り手段を含む。電子化辞書手段は、コード列からなる単語を、各単語の所定の属性たとえば品詞等に関する情報と関連づけて複数個格納するための単語情報辞書手段を含む。判定手段は、読み取り手段の出力に応答して、読み取り手段が送出しているコード列により形成されるであろう単語の、所定の属性を随時推定するための属性推定手段と、読み取り手段の出力に応答して、読み取り手段が送出しているコード列をその先頭に含む単語であって、かつ推定された属性と一致するものが、単語情報辞書手段内にただ1つのみ含まれているか否かを判定するための手段を含む。

【0012】

【作用】請求項1に記載の単語入力編集装置においては、入力手段によってコード信号が発生されるたびに、入力されたコード列と所定の関係になり得る単語が、電子化辞書手段中にただ1つのみ含まれているか否かの判定が行なわれ、ただ1つのみ含まれていると判定された場合には、その単語が送出される。したがって、そのような単語を入力する場合には、その単語のコード列のすべてを入力する必要がなく、その単語と所定の関係にある特定のコード列さえ入力すれば、他の入力は省略することができる。

【0013】請求項2に記載の単語入力編集装置においては、請求項1に記載の単語入力編集装置の作用に加え、さらに、入力手段により入力される途中のコード列をその先頭に含む単語であって、電子化辞書手段内にただ1つのみ含まれているものが存在するか否かが判定される。こうした単語がただ1つのみ含まれていると判定された場合には、その単語が送出される。したがって、そのような単語を入力する場合には、その単語のコード列のすべてを入力する必要はなく、他の単語と区別ができるだけの長さのコード列さえ入力すれば、以後のコード列の入力は省略することができる。

【0014】請求項3に記載の単語入力編集装置においては、文字情報は読み取り手段によりコード列に変換される。読み取り手段が送出しているコード列により形成されるであろう単語の所定の属性、たとえば品詞などが随時推定され、読み取り手段が送出しているコード列をその先頭に含む単語であって、かつ推定された属性と一致するものが単語情報辞書手段内にただ1つのみ含まれているか否かが判定される。そしてただ1つのみ含まれていると判定された場合には、その単語が送出される。したがって、その単語のコード列のすべてを入力する必要はなく、推定された属性と一致する属性を有する単語の中で、ある単語を一意に特定できるだけの長さのコード列を入力すれば、他の入力は省略することができる。

【0015】

【実施例】図1は、本発明に係る単語入力編集装置の第一の実施例のプロック図である。この第1の実施例は、キーボードやタッチパネルなどを用いて、タイピストなどがテキスト等を入力する装置についてのものである。

【0016】図1を参照して、この単語入力編集装置は、たとえば液晶などからなる表示部12と、たとえばキーボードからなる入力部14と、半導体ROM(Read-Only Memory)、RAM(Random Access Memory)からなる辞書部20と、所定の制御プログラムに基づき、表示部12、入力部14、辞書部20などを制御するための、たとえばマイクロプロセッサなどからなる制御部16と、制御部16に接続され、制御部16で実行される制御プログラムやテキストを格納するための、半導体ROM、RAMなどからなるメモリ部18とを含む。

【0017】表示部12には、入力テキストや、テキストの編集結果などが表示される。入力部14は、文字・記号などを入力するための複数個の文字・記号キー、編集などの処理を指示するための複数個の機能キー、入力の終了を制御部16に通知するための実行キーなどを有する。入力部14は、文字・記号キー、機能キー、実行キーが操作者により押圧されると、押圧されたキーに応じて予め定められたコード信号を制御部16に与えるものである。

【0018】図2は、制御部16によって行なわれる処理を説明するためのフローチャートである。以下、図2に基づいて本実施例に係る単語入力編集装置の動作を説明する。

【0019】まずステップF(以下単にFと呼ぶ)000において、メモリ部18内の状態を初期化する処理が行なわれる。

【0020】続いてF001では、入力部14(図1参照)から入力されたコードが機能キーのいずれかを表わすものか、区切りコードを表わすものか、その他の文字を表わすものかについての判定が行なわれる。そして機能キーであると判定された場合には処理はF002に、区切りコードであると判定された場合には処理はF004に、文字入力であると判定された場合には処理はF006にそれぞれ進む。

【0021】F002に処理が進んだ場合、指定された機能キーが辞書索引レベルを1、2、3のいずれかにセットすることを指定するための機能キーかどうかについての判定が行なわれる。レベル指定の機能キーである場合には処理はF003に、それ以外の場合には処理はF005にそれぞれ進む。なお、辞書部20には、コード列からなる単語が多数格納されており、かつ各単語にはレベル(1~3)が与えられている。辞書索引レベルとは、各単語のうちいづれのレベルの単語を検索対象とするかを指定するためのものである。

【0022】F003では、辞書索引レベルを、指定さ

れたレベルにセットする処理が行なわれ、処理は再びF001に戻る。

【0023】F005に処理が進んだ場合には、入力された機能キーに対応して予め割り当てられた所要の機能を実行する処理が行なわれる。これらの所要の機能は、本発明とは直接関係がないため、その詳細についての説明は省略する。F005の後、処理はF001に戻る。

【0024】F001において、入力されたコードが区切りコードを表わすものであると判定された場合には、F004に処理が進み、辞書を検索する際のルックアップルーチンに用いられる各種テーブル内のカウンタなどをリセット（初期化）する処理などからなる単語終了処理が行なわれる。さらに終了フラグをOFFする処理が行なわれる。終了フラグとは、後述するF013でセットされるもので、入力文字列に対応する単語が辞書内に存在していないことが判明したかどうかを示すものである。区切りコードで単語入力が終了したことから、F004でこのフラグをOFFにする。F004の後処理はF001に戻る。

【0025】F001において、入力されたコードが一般の文字を表わすものであると判定された場合には、F006でこの入力された文字を表示部12（図1参照）に表示する処理と、入力されたコード（文字コード）を格納する処理が行なわれる。このとき入力された文字と、これ以前に入力されていた文字とから、以下で行なわれる辞書検索処理のキーとなるコード列が形成される。これを入力単語編集処理と呼ぶ。F006の後処理はF006Aに進む。

【0026】F006Aでは、終了フラグがONとなっているかどうかの判断が行なわれる。終了フラグがONとなっている場合、入力文字列と一致する単語が辞書内に存在している可能性はないので、処理は再びF001に戻る。すなわち終了フラグがONとなっている場合、辞書を参照することなく入力文字列を単に蓄積する処理が行なわれる。F006Aの後、処理はF007に進む。

【0027】F007では、F003でセットされた辞書索引レベルに従って、図1の辞書部20内の辞書を、F006によって得られたコード列をキーとして参照する処理が行なわれる。このとき、指定されたレベルが1である場合には、辞書内の単語群のうち、レベル1として指定された単語群のみとの間で照合が行なわれる。指定レベルが2の場合には、辞書内でレベル1および2として指定された単語群のみとの照合が行なわれる。そしてレベル指定が3の場合には、辞書内のレベル1、2、3のすべての単語群との照合が行なわれる。そして、このようにしてレベル指定を行なって参照される単語のうち、その先頭部分が入力されたコード列と一致するものが幾つかあるかを調べる処理が行なわれる。

【0028】F008では、F007の辞書索引処理の

結果得られた単語がただ1つであるかどうかについての判定が行なわれる。ただ1つであると判定された場合には、処理はF009に、それ以外であると判定された場合にはF012にそれぞれ進む。

【0029】F009以下では、本発明の特徴である、入力文字列を辞書の内容を用いて補う処理が行なわれる。F009ではまず、軽ブザーを鳴らすことにより、操作者に対して入力文字列に対する補正が行なわれる旨の報知が行なわれる。

【0030】F010では、F007で取出された、コード列と一致する先頭部分を有するただ1つの単語を、入力されたコード列と置換えることにより単語を補正する処理が行なわれる。

【0031】さらにF011では、このようにして置換された単語を入力文字列と置換えて表示する処理が行なわれる。F011の後処理はF004に進む。

【0032】F008で、入力コード列とその先頭部分が一致する単語がただ1つではないと判定された場合には処理はF012に進む。F012では、辞書内に、入力コード列と一致する先頭部分を有する単語がそれ以上存在しないかどうかについての判断が行なわれる。存在しない場合には処理はF013に、存在する場合には処理はF014にそれぞれ進む。

【0033】F013では、入力されたコード列と一致する先頭部分を有する単語が辞書内には存在しないということであるから、辞書の参照はそれ以上行なわず、入力文字列をそのままテキスト内に取込むために、終了フラグをONとする。さらに、これまでの処理内で辞書索引のために用いられていた辞書索引制御情報を、次回から新たに開始される辞書索引に備えて初期値にリセットする処理が行なわれる。F013の後処理はF001に戻る。

【0034】F014では、さらに新たなコードを入力させることにより、コード列を1文字分長くして辞書の索引を行なう必要がある。そのためにF014では辞書索引制御情報を新たな辞書索引に備えて更新する処理が行なわれる。F014の後処理はF001に戻る。

【0035】以上のように図2に示される処理によれば、F001、F006～F008、F012、F014、F001という処理からなるループを繰返し行なうことにより順次コード列が作成される。そしてこのコード列に基づき、そのコード列と一致する先頭部分を有する単語が辞書内に幾つあるかが調べられる。そのような単語が辞書内にただ1つのみ存在する場合に処理はF009以下に進み、そのような単語を入力コード列に代えて入力単語として採用し、表示する処理が行なわれる。したがって、特に長い単語や、独特の綴りを有する単語を辞書内に多数格納しておくことにより、少ない入力で長い単語を効率よく入力することが可能となる。また、従来の略語辞書や短縮入力辞書を利用する場合と異な

り、略語や短縮文字をタイピストが記憶しておく必要がないため、タイピストの能力にはあまり依存せず、入力処理が従来よりも効率よく行なわれる。

【0036】図3は、本実施例に係る単語入力編集装置に用いられる索引用辞書の内容と、辞書索引処理および表示の例を示す。

【0037】図3(a)を参照して、多数の単語が綴りに従って配列されている。各単語には前述した辞書索引レベルに対応したレベル(1、2、3のいずれか)が予め与えられている。

【0038】図3(b)を参照して、入力部を用いて「any b」までが入力されたものとする。なお、「any」までが入力された時点では、図3(a)に示される単語のうちこのような先頭3文字を有する単語が複数個(8個)あるために、図2のF009以下に処理が進むことはない。「any b」までが入力された時点で、先頭の4文字が入力された文字列(コード列)と一致する単語は「any body」しかないことが明らかとなる。したがって図2のF008における判断の答がYESとなり、処理はF009以下の単語補正処理に進むことになる。

【0039】F010で、入力されたコード列「any b」が、「any body」に置換えられ、F011でこの新たに置換えられた単語が表示される。したがって図3(c)に示されるように画面には「any body」が表示され、入力位置は図3(c)において長方形で示されるカーソル位置に移動する。

【0040】このように本実施例によれば、7文字からなる単語「any body」を、4文字の入力で正しく入力することが可能となる。そして、索引用辞書に含まれる単語が長くなればなるほど、このような入力の効率は向上することが明らかである。これにより、操作者の能力にあまり左右されずに、単語の入力を効率よく行なうことができる。

【0041】次に、図4～図6を参照して、本発明の第2の実施例の単語入力編集装置について説明する。この第2の実施例の単語入力編集装置は、たとえば手書き入力装置や、光学的文字符号読取装置(OCR)などを用いて、文字を読取り、認識したものを入力とし、さらに、読取られた情報を辞書を用いて編集するための装置である。

【0042】図4は、第2の実施例に係る単語入力編集装置のブロック図である。図4を参照して、この単語入力編集装置は、たとえば液晶などからなる表示部12と、たとえばキーボードやOCRなどからなる読取・認識部114と、半導体ROM、RAMからなる辞書部20と、所定の制御プログラムに基づき、表示部12、読取・認識部114、辞書部20などを制御するための制御部16と、制御部16で実行される制御プログラムや、テキストを格納するためのメモリ部18とを含む。

図4と図1において、同一の部品には同一の参照符号および名称が与えられている。それらの機能も同一である。またメモリ部18に格納される制御プログラムは、第1の実施例とこの第2の実施例とでは、後述するよう異なる。

【0043】辞書部20は、第1の実施例における辞書部20と同様の内部辞書で、後続語品詞情報などを含め格納している。

【0044】読取・認識部114は、文字・記号などを読取入力するための読取部を有し、手書きまたは印刷された文字などの情報を読み取り、認識してコード化する。

【0045】図5は、図4の制御部16によって行なわれる処理を説明するフローチャートである。以下、図5に基づいて本実施例に係る単語入力編集装置の動作を説明する。

【0046】まずF100において、制御部16内の状態を初期化する。続いてF101で、読取・認識部114(図4)から入力されたコードが区切りコードを表わすものか、他の文字を表わすものかについての判定が行なわれる。区切りコードであると判定された場合には処理はF102に、文字入力であると判定された場合には処理はF103にそれぞれ進む。

【0047】F102では、図2のF004と同様の単語終了処理が行なわれる。F102の後、処理はF101に戻るF103では、入力された文字を表示部12(図4参照)に表示する処理と、入力されたコード(文字コード)をメモリ部18に格納する処理が行なわれる。このとき、入力された文字と、これ以前に入力されていた文字とから、以下で行なわれる辞書検索処理のキーとなるコード列が形成される。F103の後制御はF104に進む。

【0048】F104では、図4に示される辞書部20の内部辞書を、F103によって得られたコード列をキーとして参照する処理が行なわれる。

【0049】続いてF105では、F104の処理の結果、参照された単語が唯一かどうかについての判定処理が行なわれる。このときの判定処理は、第1の実施例と異なり次のようにして行なわれる。まず、F104で参照された単語のうち、入力されたコード列と一致する先頭部分をもつものがただ1つしか存在しない場合には、その単語が唯一の単語であると判定されて処理はF106に進む。F104の処理の結果、入力されたコード列と一致する先頭部分を有する単語が複数個参照された場合には、その単語の直前に入力されていた語の後続品詞情報に基づき、入力中の単語の品詞を推定し、一致する品詞の語がただ1つであるかどうかについての判定が行なわれる。ただ1つであると判定された場合にはその単語を入力単語として処理はF106に進む。また複数個の単語が上述した条件を満たさない場合には、F105における判断の答えはNOとなり処理はF109に進

む。

【0050】F106～F108の処理は、第1の実施例(図2)のF009～F011の処理と同様である。

【0051】一方、F109では、辞書内に、入力コード列と一致する先頭部分を有し、かつ推定された品詞と同じ品詞の単語がそれ以上存在しないかどうかについての判断が行なわれる。存在しない場合には処理はF111に、存在する場合には処理はF110にそれぞれ進む。

【0052】F110では、入力されたコード列と一致する先頭部分を有する単語が辞書には存在しないということであるから、辞書の参照はそれ以上行なわれない。入力文字列がそのままテキスト内に取込まれる。さらに、これまでの処理内で辞書索引のために用いられてきた辞書索引制御情報を次回から新たに開始される辞書索引に備えて初期値にリセットする処理が行なわれる。この処理は図2のF014の処理と同様である。F110の後、処理はF101に戻る。

【0053】一方F111では、さらに新たなコードを入力させることにより、コード列を1文字分長くして辞書の索引を行なう必要がある。そのため、F111では辞書索引制御情報を新たな辞書索引に備えて更新する処理が行なわれる。この処理は図2のF013の処理と同様である。F111の後、処理はF101に戻る。

【0054】以上のようにこの第2の実施例においても、第1の実施例と同様に図5に示される処理を繰返し行なうことにより順次にコード列が作成される。そして、読み取られたコード列に基づき、そのコード列と一致する先頭部分を有する単語が辞書内に幾つあるかが調べられる。そのような単語のうち、さらにその直前に入力された語の後続語品詞情報から推定された品詞と一致する品詞をもつ単語が辞書内にただ1つのみ存在する場合に処理がF106以下に進み、その単語を入力コード列に変えて入力単語として採用し表示する処理が行なわれる。したがって、特に長い単語や、独特の綴りを有する単語であって、しかも品詞の異なる類似の単語が存在する場合に、それらを辞書内に格納しておくことにより、第1の実施例と同様に少ない入力で長い単語を効率よく入力することができる。

【0055】図6は、本実施例に係る単語入力編集装置に用いられる辞書の内容と、辞書索引処理および表示の例を示す。

【0056】図6を参照して、読み取り・認識部により、文章中の単語「pronounce」の「proto」までが入力されたものとする。この時点では、図6に示されるように、「proto」で始まる単語が複数個(6個)存在するために、第1の実施例の方法では図2のF009以下に処理が進むことはない。しかしこの第2の実施例では、「proto」よりも以前に入力された語の後続語品詞情報を基に、「proto」で始まる語の

この文章中における品詞を推定し、一致する品詞を有する単語の数が調べられる。たとえば、動詞であると判定されれば、図6に示される辞書の場合には「pronounce」という単語が特定できる。そのためこの第2の実施例ではこの時点では処理は図5のF106以下の単語補正処理に進む。F107で、入力されたコード列「proto」が、「pronounce」に置換され、F108でこの新たに置換された単語が表示される。

【0057】このようにしてこの第2の実施例によれば、9文字からなる単語「pronounce」を、5文字の入力で正しく入力編集することが可能となる。索引用辞書に含まれる単語が長くなればなるほど、このような入力編集の効率の向上は顕著となる。

【0058】

【発明の効果】以上のように請求項1に記載の単語入力編集装置によれば、入力途中のコード列と所定の関係になり得る単語が、電子化辞書手段中にただ1つ含まれると判定された場合に、入力途中のコード列がその単語によって置換される。そのため、長い単語の場合に、その単語を構成するコードをすべて入力するまでもなく、一部のみを入力することによってその単語を装置内に入力することが可能となる。この入力には、従来の技術のように略語を覚えたり、既に入力された単語か否かを記憶したりする必要がない。そのため、個人的能力にそれほど左右されず入力の効率を向上させることができる。

【0059】その結果、操作者の能力に左右されず、単語入力の効率を向上させることができる単語入力編集装置を提供できる。

【0060】請求項2に記載の単語入力編集装置によれば、入力途中のコード列の先頭部分と同一の先頭部分を有する単語が、電子化辞書手段中にただ1つ含まれると判断された場合に、入力途中のコード列がその単語によって置換される。そのため、長い単語であって類似の綴りの少ない単語を入力する場合には、その単語の先頭の一部のみを入力することによってその単語のすべてを装置内に入力することができる。したがって、辞書をより有効に利用し、タイピストの個人的能力に左右されず、単語入力編集処理の効率をより高めることができる単語入力編集装置を提供できる。

【0061】請求項3に記載の発明によれば、読み取り・認識されたコード列の先頭部分と同一の先頭部分を含む単語であって、かつ直前の語の後続語情報で推定されるその入力中の単語の品詞と一致するものが電子化辞書手段中にただ1つのみであると判定された場合に、入力途中のコード列がその単語によって置換される。そのため、品詞の異なる綴りの類似した単語が複数ある場合でも、先頭の一部のみを入力することによって該当する単語を装置内に取込むことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第一の実施例の単語入力編集装置のブロック図である。

【図2】図1に示される装置で実行される処理のフローチャートである。

【図3】辞書の内容および単語入力の経過を示す模式図である。

【図4】本発明の第2の実施例の単語入力編集装置のブロック図である。

【図5】図4に示される装置で実行される処理のフロー

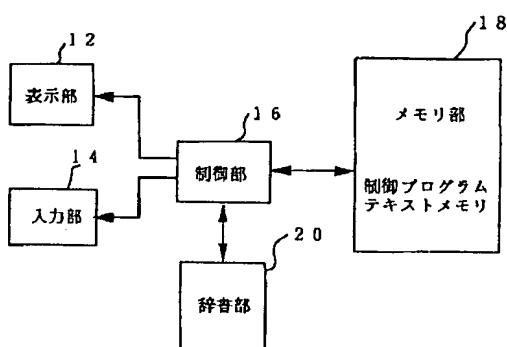
チャートである。

【図6】第2の実施例における辞書の内容および単語入力の経過を示す模式図である。

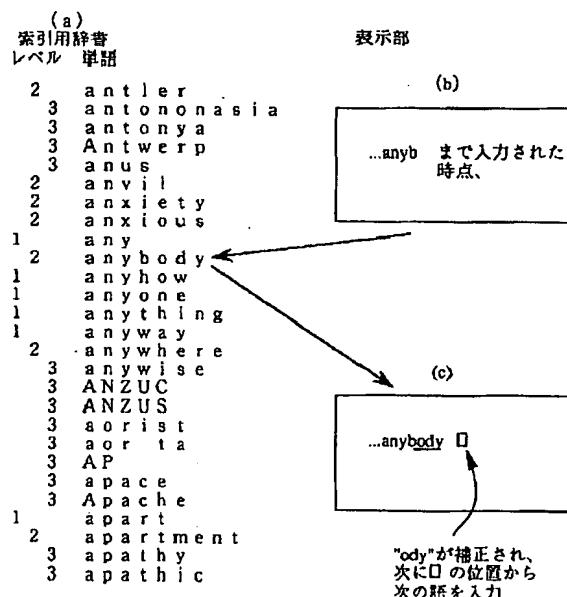
【符号の説明】

- 1 2 表示部
- 1 4 入力部
- 1 6 制御部
- 1 8 メモリ部
- 2 0 制御プログラムテキストメモリ
- 1 1 4 読取・認識部

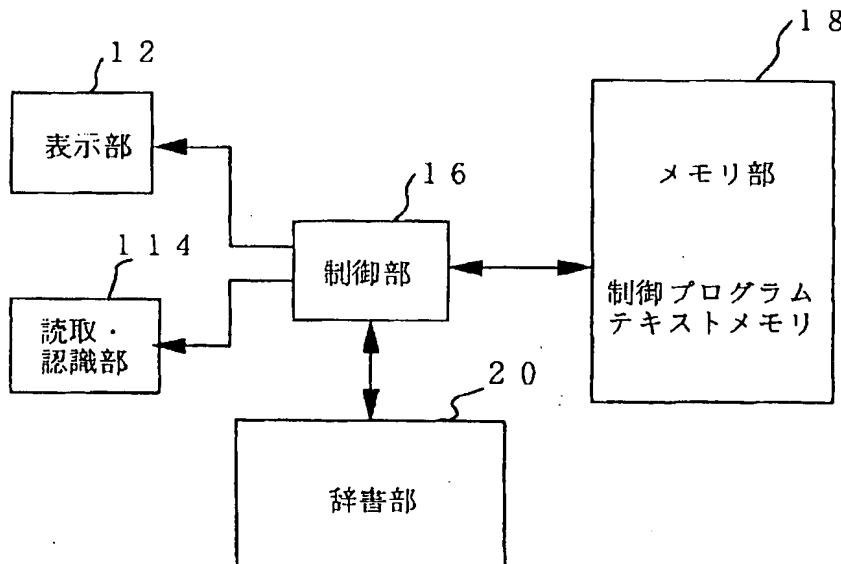
【図1】



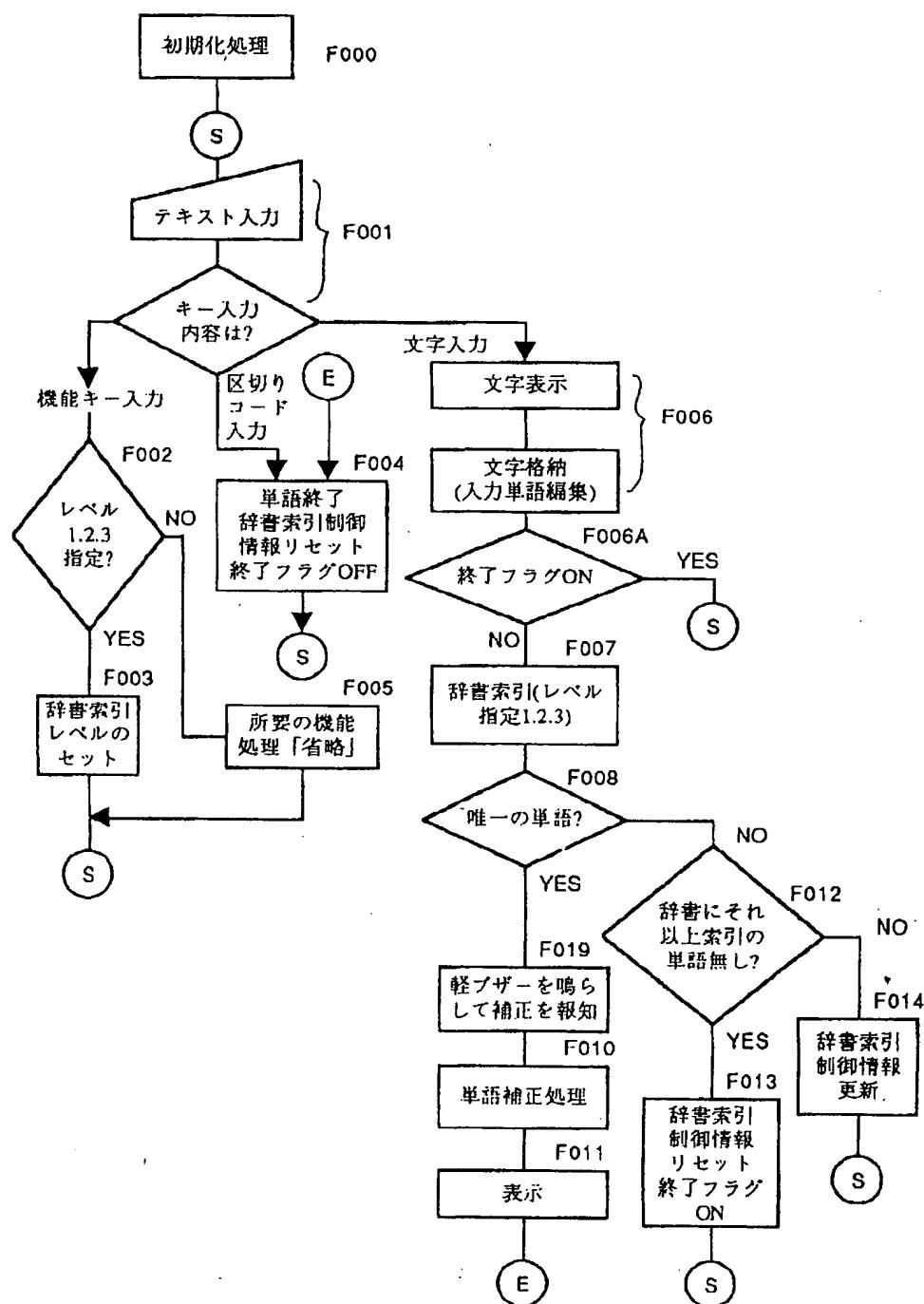
【図3】



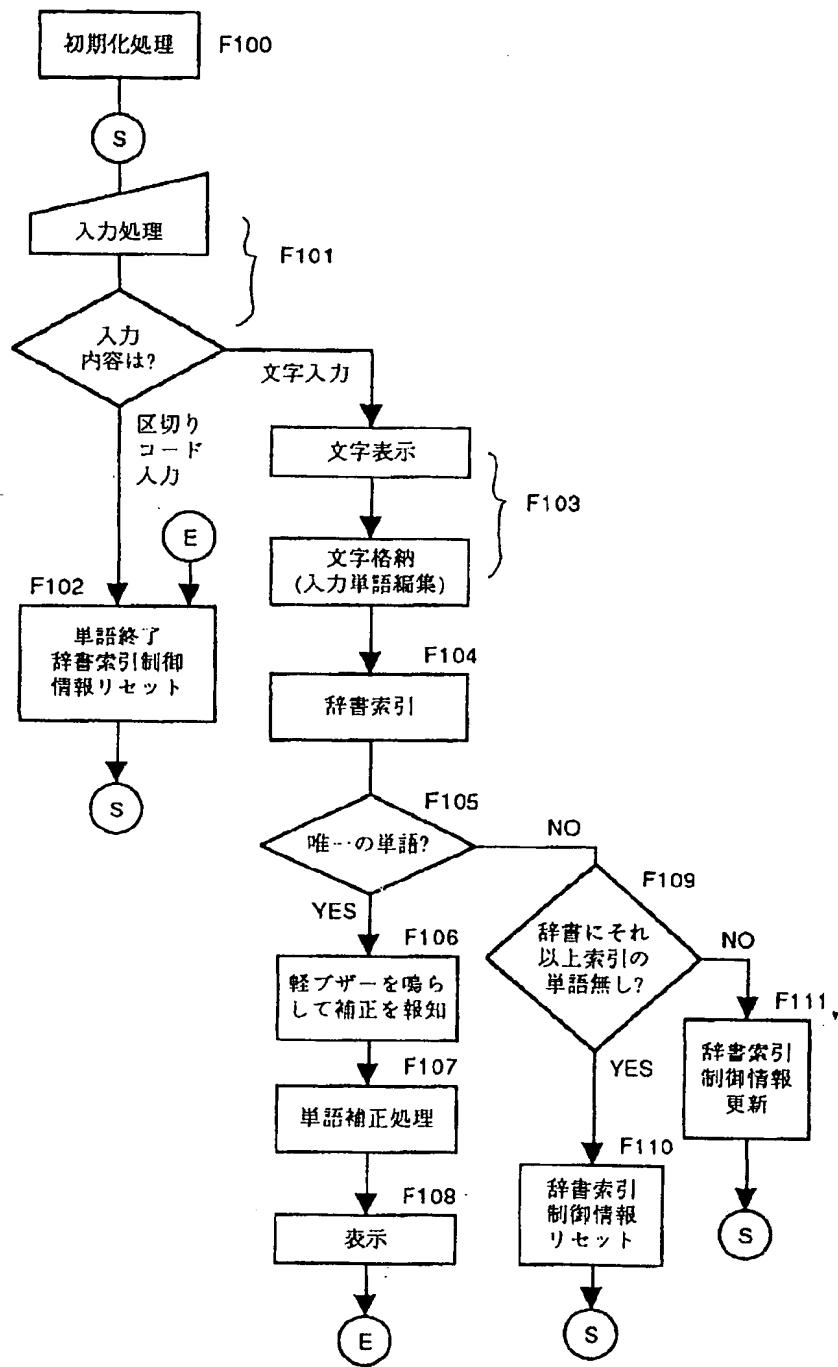
【図4】



【図2】



【図5】



【図6】

| 単語 | 品詞 | 後続語品詞情報 (特に複合語、熟語 に付される。) |
|----------------|--------|--|
| prong | n, vt | |
| pronghorn | n | |
| pronominal | a | |
| pronoun | n | |
| (a) pronounce | vt, vi | |
| pronounced | a | |
| pronouncedly | ad | |
| pronouncement | n | |
| pronto | ad | |
| pronunciamento | n | |
| regarding | prep | (da, p) n dispensable 指定 (なくてても良い) |
| | | essential 指定 (必須) |
| | | (注) |
| | | da : 定冠詞 |
| | | p : 代名詞 |
| | | n : 名詞 |
| | | vt : 他動詞 |
| | | vi : 自動詞 |
| | | ad : 副詞 |
| | | a : 形容詞 |
| | | prep : 前置詞 |